

理工学部男女共同参画シンポジウム参加者アンケート 集計結果

理工学部男女共同参画推進委員会

◆内訳

参加者: 48名(女性 20、男性 28)
(教職員 25、学生 22、乳児 1)
アンケート回収結果: 24名

◆評価

とてもよかった 15、よかった 7、ふつう 2

◆印象に残った内容(抜粋)

- ・SCSKの取組の目的が「健康経営のため」ということを掲げられていること
- ・京大の安岡先生のお話で「キャリアにおける男女差は無いが、同キャリアにおける結婚等の格差がある」というお話は印象的でした。
- ・山本先生のありのままをお話し下さった内容のおかげで、子育てと仕事の両立の実情がとてもよく伝わったと思う。

◆本日のシンポジウムで、何か新しい発見があればお書きください。(抜粋)

- ・企業の取組みが社員の価値観、意識を変えることに驚いた。
- ・関学理工学部の育児支援制度
- ・研究者の子育ては、業務+研究+休暇と、一般会社勤めの人と違い、1ステップ多いことはあまり考えたことがなかったため、新鮮でした。
- ・男女共同参画ということに男性側が積極的に働きかけてくださることで、理解も深まり、よい形で実現するということがわかった。
- ・女性がマネジメントをするセクションが風通しがよくコミュニケーションがうまく働くという話。

◆本日のシンポジウム全体についてのご感想をお書きください。また、今後聞いてみたいテーマや講師、その他ご意見があればお教えください。(抜粋)

- ・育児産休関連で片親の場合のケースも挙げて欲しいと思います。
- ・3人の方々の違った立場での交流、意見交換が非常に興味深かった。
- ・自身が就職した時に育児と両立できるのかという漠然とした不安がありましたが、社会における色々な支援があるということに少し安心しました。
- ・今回は男性視点だったが、男性と女性を同時に行うなど。
- ・トップの強い思いとトップダウンによる改革が必須だと思った。
- ・SCSK社さんの取り組みには本当に驚きました。10年以上かけてあらゆる視点から改革を行ってこられたその根本は、3つの約束の1番目である「人を大切にします」だったんだなあと思うと、感動すら覚えました。関学がこのような組織になり得るとは、正直なところ想像できませんが、理工学部の先進的な取り組みがきっかけとなり、職員も含めた全体に波及していく可能性があるのではないかと期待を持ちました。

以上